

令和元年度 上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会 合同会議を開催しました



2020年2月15日（土）
上越市雁木通りプラザ

合同会議では、4つの専門部会の3年間の活動報告・評価・次年度に向けた課題・意見交換と、令和2年度以降の協議会の取組方針・体制案について協議されました。

■専門部会の3年間の取組評価と今後の方針は次のとおりです。

<入退院時支援部会>

<取組評価>

- ・ケアマネジャーと病院の連携ガイドライン、入退院時連携フローができ、地域の一定のルールはできた。しかし周知が十分でないため、今後も活用を促す必要がある。
- ・地域連携連絡票の内容について、病院、地域それぞれが欲しい情報、出す情報に違いがあることが分かった。病院、地域の連携を深めるため、今後も研修会の継続開催が必要である。

【今後の方針】

- ・ケアマネジャーと病院の連携ガイドライン・入退院時連携フローの周知、地域連携連絡票の活用・成功事例を増やす。
- ・入退院時支援部会研修会を継続開催し、地域と病院の連携を深める。
- ・主任ケアマネジャーの活用の検討
事業所間の横の連携を強化し、ガイドラインや地域連携連絡票の活用を促す。
- ・訪問看護チェックリストの活用
新潟県訪問看護・ケア協議会上越支部に活用推進の役割を移行していくことを検討

<多職種連携推進・研修部会>

【取組評価】

- ・多職種連携研修会を3年継続することで、地域連携連絡票が多職種協働の共通ツールであることを周知・共有することができた。
- ・介護支援専門員以外の専門職には地域連携連絡票が十分周知されていないことが分かった。
- ・医師を含む多職種は、情報提供の共有ツールとして地域連携連絡票を介護支援専門員から提供してほしいと思っていることが分かった。

【今後の方針】

- ・地域連携連絡票の日常的な活用を進めるため、仕掛けづくりが必要である。
- ・多職種が連携して利用者本位の支援を提供できるように、専門職のスキルアップを図る必要がある。

<ICT 連携部会>

【取組評価】

- ・MC ネットの加入事業所は増加し、必要に応じて利用している状況はみられるが、加入者の3割近くはあまり利用していないと考えられる。
- ・利用者の状態変化時に限らず、日頃からMC ネットを活用し連携を図っていけるように意識づけを行う必要がある。

【今後の方針】

- ・加入、活用促進のための取組を継続
- ・医師・薬剤師・病院との連携推進
- ・「上越地域の情報共有ツールであること」の周知
- ・活用状況の定量的な評価指標の評価を継続
- ・実稼働登録者数の整理のために、退職者・法人内異動等における変更届の提出など（事業所管理者・使用者の責務）の徹底
- ・今後は、当部会活動を上越地域在宅医療推進センターに委ねることを検討

<普及啓発部会>

【取組評価】

- ・シナリオは市民講座やサロンなど少数で活用する方が、聞き手の理解度や質問・意見が出

やすく、よかった。

- 地域包括支援センターが行う講座でもシナリオを活用し市民へ啓発していけるとよい。

【今後の方針】

- 普及啓発用スライドの活用促進
 - ① 各市の市民講座等で活用する。
 - ② 職能団体内および職能団体が行う市民向け啓発講座で活用する。
 - ③ スライドを“がんぎネット”にアップし、活用しやすくする。
- 年代や地域に合わせてスライドのバリエーションを作り、対象者に合わせた啓発が行えるようにする。
- スライドを活用して、地域包括支援センターの認知度を上げる。

- 3年間の活動評価から、今後取り組むべき点について、在宅医療介護連携推進協議会として、行政や各職能団体へ「提言(案)」が提出され、承認されました。

※別紙参照

この「提言」は、後日、行政や各職能団体へ提出されます。



- 令和2年度からの協議会のビジョンと取組方針及び体制案について承認されました。
- 令和2年度から4年度までの、本協議会で取り組む在宅医療・介護連携のビジョンは、「住み慣れた地域で暮らし続けることができる上越地域」を目指し、必要な体制を整えていくこととなります。
- 新たな専門部会と取組は以下です。

- ① 入退院時連携推進部会
…入退院時の支援や連携のためのスキルアップを行う
- ② 対人援助スキルアップ部会
…その人らしさを尊重した多職種での支援の必要性から、対人援助職としての人材育成を行う

- ③ 市民啓発部会
…地域の特徴、ライフステージなど対象に合わせた普及啓発を継続する
- ④ 急変時対応部会
…急変時の対応の実態把握や、日常の急変時の対応体制づくりについて取り組んでいく

○ 委員からは、ICT連携部会の取組を上越地域在宅医療推進センターに引き継ぐにあたって、これまでのスキルを部会メンバーの協力を仰ぎながら実施することや、対人援助スキルアップ部会については、現場のスタッフのスキルアップが重要であることなどについて、ご意見をいただきました。

※ICT連携部会の取組については、令和2年度以降、上越地域在宅医療連携推進センターが引き継ぎ活動を継続していくことが承認されました。

■ 終わりに

協議会発足から3年間、協議会委員や部会委員、上越地域在宅医療推進センター、事務局が様々な課題に対し、対話を重ね、取組を実施してきました。

多くの方とつながったことは、協議会に関わった皆さんの財産になったと思います。この信頼関係を次のステージでも活かしていけるよう、力を合わせていきたいと思います。

今後も上越地域が目指すビジョンに向けて、様々な取組を行ってまいりますので、ぜひ各職能団体の御協力をお願いいたします。



合同会議終了後の懇親会での記念撮影